

領域	評価項目	実践事項	自己評価		学校関係者評価		
			学校の自己評価と改善策	評価	学校関係者評価委員のコメント	評価	
徳	主体的・実践的な態度の育成	(1) 自己有用感と心の育成 <ul style="list-style-type: none"> 仲間づくり 自己有用感を育む指導の工夫 「温かいことば」のあふれる学校づくり 	○個に応じた教師による言葉かけや、児童相互でのにっこりカードの活用等、生徒指導主事を中心に職員が継続して実践してきた。思いやりのある言動について具体的にイメージさせながら指導を展開することができた。	A	A	・寿会も楽しみにしているので今後も継続をお願いします。 ・人見知りだった子どもが話しかけてきたときはうれしかった。 ・荒小だからこそできる個に応じた学習。	A
		(2) 児童の主体的な取組推進 <ul style="list-style-type: none"> 学びに挑戦し続けるための支援 学校行事等における主体性の支援 	○行動や活動を行う前にめあてを持ち、自分の取組に対してふりかえることを続けることで、自己決定力を高める場を設定することができた。 ○小規模校における年齢構成や人数に応じた活動について見通しをもたせることで、児童の自発的な活動を促すことができた。	A			
		(3) 体験活動の重視 <ul style="list-style-type: none"> 諸活動の充実 M学習での交流重視 村や地域への行事等への積極的参加 荒川保育所との連携 	○地域のお年寄りや幼児等、様々な年代との関わりを通して、相手を意識した行動ができています。 ○各活動で事前にオリエンテーションを行い、目的を明確にしたことで学びにつなげることができた。 ○M学習において児童が積極的にコミュニケーションを図り、表現力と交渉力が養えるような支援を行いたい。	B			
心豊かな児童の育成	2 基本的な生活習慣の育成	(1) 「荒谷小学校よい子のきまり」に基づく生活指導 <ul style="list-style-type: none"> 「自分で決める」習慣の育成 規範意識等の指導の徹底 道徳の時間の工夫改善 	○忘れ物や会釈、立腰等について常時指導や下校前の呼びかけ等を通し、規範意識の育成に努めた。 ○全職員が全児童に対して声かけや指導をしていたので、徹底が図られている。 ○メディアコントロール週間中は取組の意識も高まっているようだが、日常の様子を見たり話を聴いたりすると、メディア漬けの生活を送っているようだ。	B	B	・近所の子どもが少なく家の中の行動が多くなる（ゲーム機）ようだ。 ・テレビやパソコン、ゲームなどが日常に多く、なかなか時間のコントロールができない。 ・登下校の時、大きな声で挨拶をもらう。うれしいです。	B
		(2) 「あいさつ」指導 <ul style="list-style-type: none"> 登下校及び立腰指導 村内各学校との連携による指導 	○時や場に応じて挨拶や会釈を行う児童が増えた。立腰指導や静かな廊下歩行については今後も指導を継続する必要がある。 ○登下校の様子は落ち着いているが、ペースを考えて歩くことができるよう継続して指導していきたい。	B			